

A L P S 処理水海洋放出開始 1 年にあたって（声明）

A L P S 処理水の海洋放出開始から、1 年が経過した。

この間、中国等の日本産水産物輸入全面停止措置の影響を大きく受けた魚種等に対し、国内では「応援消費」の機運が高まり、国民の皆様にはたくさんの需要も頂いたことに感謝申し上げます。

しかしながら、これらの主要輸出品目が中国等に輸出されることなく国内に全て還流した場合には、ほかの魚の需要を圧迫し、魚価全体に広く影響が及ぶこととなる。

国は、こうした状況を重く受け止め、中国等による日本産水産物の輸入全面停止措置の早急な解除に向け、全力を挙げて取り組むと共に、日本国内の水産物消費をさらに拡大すべく、我々 J F グループの魚食普及活動に対する支援を求めるものである。

また、A L P S 処理水は、ここまで通算 8 回の海洋放出が実施されてきたが、その都度、我々は緊張感をもって注視してきた。

この一年は、今後数十年の長きに及ぶ廃炉に向けた取組の端緒に過ぎない。

今後、万が一重大な事故やトラブル等が発生すれば、これまで積み重ねてきた信頼関係や漁業者・国民の理解は、一瞬のうちに水泡に帰す恐れがあることを、国、東京電力は忘れてはならない。

こうした漁業への長期にわたる不安によって、漁業者の操業継続の意欲が失われ、後継者の新規着業の意志も挫かれかねない。

我々 J F グループは、これまで一貫して申し上げてきた通り、漁業者・国民の理解を得られない A L P S 処理水の海洋放出に反対であることは変わらない。

国においては、福島県の漁業者をはじめ全国の漁業者やその後継者が子々孫々まで安心して漁業を続けることができるよう、「漁業者に寄り添い、必要な対策を取り続けることをたとえ今後数十年の長期にわたろうとも、全責任をもって対応する」との総理の約束を確実に履行していくことを、あらためて強く求めるものである。

2024年8月23日

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長 坂本 雅信